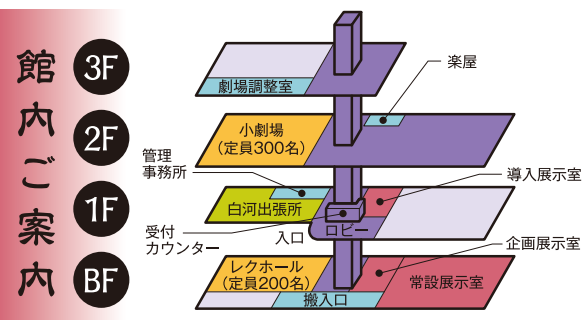


深川江戸資料館



- 交通機関
- ◇ 都営地下鉄大江戸線 ▶ 清澄白河駅下車 (A-3出口より 徒歩3分)
 - ◇ 東京メトロ半蔵門線 ▶ 清澄庭園前下車(徒歩3分)
 - ◇ 都営バス 門33系統 ▶ 清澄庭園前下車(徒歩3分)
 - ◇ 都営バス 秋26系統 ▶ 清澄白河駅下車(徒歩4分)

指定管理者

公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

江東区深川江戸資料館

〒135-0021 東京都江東区白河 1-3-28

TEL 03-3630-8625 FAX 03-3820-4379

ホームページ ▶ <https://www.kcf.or.jp/fukagawa/>

導入展示室

“松平定信”や“鶴屋南北”等、深川ゆかりの人物と深川の歴史を紹介しています。



常設展示室 ~江戸の町並み再現~

江戸時代末(天保年間)の深川佐賀町の町並みを実物大で再現しています。一日の移り変わりを音と光で演出し、季節ごとに展示内容を替えていますので、一年を通してお楽しみいただけます。

企画展示室

常設展示に関連するテーマの展示や、江東区の職人や芸能に関する映像があります。

展示室観覧料

	個人	団体	障がい者割引
大人(高校生以上)	400円	300円	200円
子ども(小・中学生)	50円	30円	20円

- ※ 一人1回につき。団体は、20人以上といたします。
- ※ こどものみでの見学はできません。
- ※ 障がい者手帳などを提示された方及び介護者1名は割引となります。

開館時間

- 展示室** 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 小劇場/レクホール** 午前9時～午後10時

休館日

- 年末年始(1月2日より開館)
- 第2・第4月曜日(祝日の場合は開館)
- 設備点検・展示替えの際は、臨時休館いたします。
- ※ 駐車場の収容台数が少ないため、電車・バスなどをご利用ください。

表通り



干鯛・メ粕・魚油問屋「多田屋」

干鯛・メ粕（肥料）、魚油（灯油）を扱う大店。



八百屋「八百新」

季節の野菜のほか、漬物・こんにゃく・卵なども並んでいます。



春米屋「上総屋」

米問屋から米を仕入れて庶民に売っています。唐臼という器械で精米します。



船宿「升田屋・相模屋」

猪牙舟を使って、船頭が人や荷物を搬送します。飲食や宴会もできる小料理屋のような場所です。

町を火事から守るための建物で、最上層には半鐘がつるされており、火の手が上がると番人がこれを鳴らして町に知らせます。

掘割



火の見櫓

屋台

階段上から深川の町並みを眺めてみたい？ さあ江戸の町へタイムスリップ町並みを体感してみるニャン

僕は江戸の町並みの案内役まめすけ実助ニャン

江戸 深川 町並みまつり



長屋の住民の共同スペースで、井戸・便所・ごみ溜め・縮荷があります。

ここには何があるのかニヤー



「共同スペース」井戸 便所 縮荷社



「棒手振 政助」の住まい



「船宿の船頭 松次郎」の住まい

この木は春には綺麗な桜が咲くニヤン

どこからか… 鶏や雀の鳴き声、あさり売りの声、雨戸を開ける音、時を知らせる鐘の音… 聴こえてきませんか？

火事の時、火が次々と燃え移るのを防ぐために設けられた広場。水茶屋、天ぷら屋・二ハそばの屋台が集まっています。

長い家を壁で仕切っただけの庶民の住む家。江戸では多くの人々が長屋住まいでした。ここでは下の5家族が暮らしています。

- ① 棒手振 政助
あさり・しじみのむきみを天秤棒でかついで売るのが仕事
- ② 春米屋の職人 秀次
妻と小さな子どもの3人暮らし
- ③ 船宿の船頭 松次郎
猪牙舟や荷船を扱う船頭
- ④ 三味線の師匠 於し津
読み書き、手習い、裁縫も教えている
- ⑤ 木場の木挽職人 大吉
妻と二人暮らし 壁には商売道具の大鋸がかかっている

長屋